

「三重県企業庁の経営に関する懇談会」 開催結果（概要）

1 日 時 平成24年2月3日（金） 13：30～16：25

2 場 所 企業庁 中勢水道事務所

3 出席者

（1）懇談会構成員

- ・伊藤 恵子 （伊藤印刷株式会社 専務取締役）
- ・菱田 幸子 （菱田建材株式会社 取締役）
- ・杉浦 礼子 （高田短期大学オフィス人材育成学科 准教授）
- ・来間 敦 （J S R株式会社四日市工場事務部 総務チームリーダー）
- ・高木 一義 （三重硝子工業株式会社 取締役社長）
- ・石川 雅己 （桑名市上下水道部 上下水道事業管理者）

（2）事務局

企業庁長、経営分野総括室長、事業分野総括室長、電気事業対策総括推進監、企業総務室長、財務管理室長、危機・事業管理特命監兼R D F 発電特命監、中勢水道事務所長、企業総務室企画G副室長兼企画員 他

4 内 容

（1）説明事項

- ・第2次中期経営計画の概要
- ・水道、工業用水道事業の実施状況
- ・電気事業の実施状況
- ・平成22年度の決算状況
- ・企業庁における危機管理、施設耐震化について

（2）高野浄水場見学

（3）意見交換

5 主なご意見

- ・民間委託に関して、県はどこまで責任を果たすのか。また、企業庁職員の育成だけでなく、県内業者も委託に参加できるように業者の育成にも取り組んで欲しい。
- ・民間委託により、最終的に企業庁は無くなるのか、あるいは一部業務だけを民間委託して、あくまでも三重県が主導して管理していくのか最終的な姿が分からないので、ビジョンを明確にすることが重要である。
- ・民間委託は、料金値下げやサービス向上が目的であれば歓迎であるが、一方で、安定供給を考えると、民間よりは公共事業が経営している方が安心できる。
- ・緊急時における初動体制として、自宅から最も近い施設へ参集としているが、人員配置について何か考慮しているのか。
- ・今年度導入した安否確認システムは、実際の緊急時に確実に対応できるよう選択ボタン等を用いて、操作がより簡単にできるように検討してはどうか。
- ・耐震設計は、どの程度の震度を想定しているのか。また、地理的条件など各施設

における諸条件を考慮、精査して耐震設計を進めて欲しい。

- ・企業庁の施設が耐震化されても、他が管轄する水源施設等も地震や津波の対策が行われなければ意味がないので、企業庁からも他の事業者へ要請をして欲しい。
- ・松阪工業用水道では、櫛田川から伏流水取水を行っているが、大雨が降ると濁りが発生することがある。濁度発生時の対策を検討して欲しい。
- ・長良川河口堰の開門調査に関して、塩水が工業用水に入ると機器に影響が生じるが、塩害が発生した場合の補償や議論がなされていないように思う。そのようなことについても検証するよう三重県からも要請して欲しい。
- ・内部留保資金は、営業収益の1年分を確保するとしており、現在は、営業収益を超える部分を耐震化や老朽劣化施設の更新等に充てて経営している状況である。その余裕幅が年々少なくなる一方で、施設更新等は永久に続くことになるが、第2次中期経営計画後となる平成27年度以降の財源はどのように考えているのか。
- ・工業用水道では、休止水量が負担となっており、契約水量を減量して欲しいと要望するユーザーもいる。一部ユーザーだけが得をする減量はあまり良くないが、料金改定時において契約水量の減量についての検討もお願いしたい。
- ・企業庁から各市町の水道事業者に対して、技術的なサポートだけでなく、公営企業における経営面のサポートもお願いしたい。
- ・RDFを赤字から黒字とするため、原料となるごみをいかに集めるかを考えてはどうか。また、赤字事業であるならば、事業撤退することはできないのか。